

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日）	烏日娜	（****年**月**日）
本籍	*****	
学位（専攻分野）	博士（健康科学）	
学位授与番号	甲第141号	
学位授与日付	平成28年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	大豆及びザクロのモデル動物実験系を用いた接触過敏症抑制効果の解析	
審査委員	教授 山田作夫	教授 長野隆男
	教授 宮田富弘	

### 博士論文内容の要旨

低分子の化学物質がアレルギー性の皮膚炎を起こすことが知られており、この皮膚炎はアレルギー性接触皮膚炎（ACD）とよばれる。マウスを用いた接触過敏症（CHS）動物実験系は、ACDのよいモデル動物実験系と考えられている。本研究ではCHS動物実験系を用いて、CHS動物実験系に与えるジニトロフルオロベンゼン（DNFB）の影響、大豆及び大豆イソフラボン（SI）のCHS抑制効果、ザクロポリフェノール濃縮物（PPC）のCHS抑制効果について研究を行った。研究の結果、0.15%と0.3%DNFBでは2回のチャレンジで、0.5%DNFBでは1回のチャレンジでCHS評価をすることが望ましいことが示された。次に、大豆及びSIの摂取によりCHSが抑制されることが示された。この理由として、好酸球を動員する*CcL24*の遺伝子発現を抑制することが考えられた。更に、PPCの摂取によりCHSが抑制されることが示された。この理由として、好中球を動員する*Cxc12*と*Cxc13*遺伝子が抑制されることが考えられた。

### 博士論文審査結果の要旨

予備審査会を2回遂行して慎重に審査した結果に従って、次のような進展が認められた。まず、博士論文の論文題目と構成が訂正され、さらに、論文発表会で、研究に対する知識と理解があまり十分ではないと問題視された点について、論文修正を繰り返す過程で徐々に向上が認められるようになった。また、博士論文に対しては、文章の若干の不備と研究内容に対する考察を追加すべきである旨が指摘され、後日、追加・修正がなされた結果、内容ならびに形式についても条件を満たしたものとなった。一方、研究内容については、ヒトでのアレルギー性接触皮膚炎に対する大豆やザクロ抽出物の抑制効果が期待できる結果が得られており、既に審査付の和文誌に1報を発表して学術的な評価も受け、欧文誌へも共著者ながら1報が受理され順調に進んでいると判断された。以上の点から、学位審査会では、烏日娜さんの論文を博士論文に値するものと評価するとの結論に至った。